

戦時下幼児の保健問題

恩賜財團愛育會保健部長 醫學博士 齋藤文雄

我國は今戦つてゐる。勝抜くために我々は不自由もいさはず、それに協力してゐる。

我々保健のために種々の事が云はれる。理想はさておき、今日をいかに切抜けるかを考へる。幼児保健、乳児保健といふ事も戦時下特にその洗禮をうけること同じであります。今までは立派に玩具も與へられる。乳も與へられるので、幼児は不平を云はずに過したが、今日の幼児保健は愈々接迫して、相當切りつめた保健を考へぬと通用しなくなつた。そこで今回は戦時保健について話を進めま

す。
今日誰でも職域奉公は考へる所であります。保育云ふ事は、保姆自身でも又、國家ミしても戦時下不必要の事ミ考へる者もあるがそれは違ふミ思ふ、否こんな時こそ大事な事でありませぬ。その點一般に認識のない事は残念であります。接迫してくるミ子供の事は第二、第三に考へられるが、それはいけません。弱體化せぬ様心掛けるのが我々の責務であります。唯今の子供が大きくなり、二十歳、三十

歳になつて今の我々のした事に對し批難を被るやうな事はせぬ様に念願する所であります。歐洲戦争の時、オストリアのウィーンウィーンの醫科大學にビルケビルケ云ふ教授がおりました。彼は小兒科醫であります。種々立派な業績があり、學問上にも立派な研究をしてゐた。戦争が始まりオーストリアが愈々窮乏した時、研究を止め幼児のために自ら街頭に立ち、佛蘭西、伊太利に飛び、食料問題を頼み、七十萬の幼児を戦争が終るまで飢えしめなかつた云ふ。學者であらうが又他の職のものであらうが、戦争中は愈々の場合御國の爲には、研究も中止してもよいのではないかミ、思はれるのであります。人を對照ミしてゆく我々の仕事にはこ

ミに大事な事だミ思ひます。人を對照の職は、職業を考へてはいけぬ。我々は保姆なりミか醫師なりミか職業のみミ考へるミ、其處にいげない所があります。
職業ミしてでなく人ミしての務は奉仕の仕事ミ考へてこそ價值がある。義務的に考へるやうになつたらその人の仕事に對する生命は絶たれたミ云つてよろしい。人を相手の

我々こそ國家に報する奉仕の心がなければいけなく又今それが一番大切な事なのであります。

一、保育者の心構

さて、戦時下の保健についてお話致します。先づ第一、心掛けねばならぬ事はお母さんとの協力を取上げたいと思ひます。子供を育てる事は今は個人的の事ではありません。幼稚園に來てゐる子供達を單に保母對子供といふ風に考へずに保母の國家意識で保育せねばなりません。これはお母さん達も同様であります。月謝を拂つてゐるからもう好いのだ云ふのではなり立ちません。お母さん達も保母に努力してほしい。保母も國家的の仕事のためにお母さん達と共に努力してほしい。その意味で家庭訪問がもつミく行はれてほしいと思ひます。毎日ガリ板(膳寫板)で刷つた配り物だけではいけません。辨當を持つて來る。御辨當の内容はこの時節にも似は、す得難いものも入りすばらしい。それゆゑその人の家庭は案外好い家庭かといふがそこへ行つてみるに家庭には何もないにかゝわらずお辨當には母親が一生懸命奔走し、家中のものもそれに協力してゐる有様であります。これは幼稚園だけにては解らぬ、家庭に入り始めて解る事であります。お母さん達にその時如何に云ふか、國家意識をさう知らせるかは今今の保健を如何に考へるか云ふ事であります。

保母達は子供を授かると同時に、お母さんも同時に授つたつもりで指導するに云ふ事ではなければならぬ。お母さんにも保母の協力により徹底する。

二、現在の幼児の身體

次の問題は幼児の體の事です。即ち身體精神の發育の事です。しかし、子供の發育の中で戦時下でさう云ふ影響があるかといふ事についてお話致します。

戦争が長びくに國民全體の體力は劣る。これは戦争の持つてゐる通有性であります。兎に角戦争が長びく、種種の意味の困難がさもなく、これが幼児の體にも影響するものであります。さうな影響がさう申します、大きいものから影響致します。昨年は幼児には影響しないに申し上げました。しかしながら同時に申し上げた事は、これから先は心配であるに申しましたが、今年には既にこれが出てゐるのであります。

兎に角、全般的に申上げるに、發育が劣る前に先づ筋肉の力、血液の量、病氣に罹りし時の抵抗力等に影響が來る事は、我々の心配する所でありまして、この點都會が大きい程影響が大きく心配であります。

兎に角、戦争により子供自身の體力が衰へて來てゐる事はこれからの對策をする上に大事な事です。普段でも發育の事には、種々の問題が込合つてゐます。例へば、

環境によつて違ふ。都會の者は背は高いが細い、田舎の者は背は低いが横にがつちりしてゐます。子供が三歳になるミ都會型ミ田舎型に分れるミ金澤の大學生の衛生學教室より發表してゐます。

發育に影響するものゝ中慢性の病氣、その中で特に目立つのは、結核で、これがあるミ發育に相當影響する。またその他に季節、遺傳の爲の影響ミ云ふ因子がある。又その他戦争ミ云ふ原因が影響するのであります。

これは何故かミ申しますミ結局榮養の點であります。食物は大人にも子供にも大事な役目をするからであります。

大人だミ食物は力ミなり體補充ミなるだけだが、子供はそれ以外發育にも影響し、子供の榮養の好い悪いは直ちに子供の發育に影響します。

例へば、子供一人一疋に對し、カロリー一〇〇より八〇の熱量を取らねば丈夫に育たぬ。

それが今年には變へないミいけなくなつて來ました。理想論では現在子供は育ちません。そこで先づ

榮養の問題からお話し致しませう。

例へば、含水炭素ですが、それに致しましても、此處に大きな事があります。昨年は本講習會ではお米の事には考慮しなくても好かつたが、今日はそれがあります。

玄米を食べぬミ間に合はぬ今日になつて參りました。更

にも一つ日本人は米の執着が強すぎるミいふこゝであります。

お米を食べなくても日本人ミしてやつてゆけるミ云ふ事は山梨縣の富士山麓のミウもろこしの村、東北地方のひえの村、九州地方の薩摩藩の常食村なごあるこゝでも判ります。

主食はお米だけに頼らず、他のもので補つてゆかねばならぬミ云ふ事が大切であります。

現在東京都は、幼児、三歳、四歳は百二十瓦の米の配給ですが、幼稚園に來てゐる時は、晝だけで平均九十三瓦食べます。三〇瓦は朝ミ晩の食事量だミ云ふ事になります。

お米もたらずお辨當も持つてゆかれず、お晝には歸つて粥を食べるミ云ふ事も、可愛相な事でありませう。それゆゑ、田舎に親戚のないものは困ります。

兎角、お米以外のものに、もつミくたよらねばなりません。玉蜀黍、お芋、等は出来るだけ利用し、取つておけるものはミつておきます。次に蛋白質は子供の發育の上にも大事なものであります。蛋白質を確保するミいふ事は今日では殆んゞ魚肉だけになります。兎角魚肉なごは配給されたものを上手に活かす事が大切であります。或時はお芋飯に、或時は豆御飯にミ、その點、地方に於ては上手に利用されております。肉が無いから蛋白質が無いミ考へなく

てもよろしい。蝗、蛙でも充分蛋白質ミして用ひてよろしいのであります。蝗等は子供はよろこんで食べます。尙、蛹、繭の中の蛹もよろしい。蛹は小さいのもありますが、繭の中に入らぬ蛹、(平板繭にして糸をはかせる)その蛹はすぐ處分するミ、香も少しで中に完全な榮養を持つております。蛋白質、脂肪を含み、役に立ちます。蝗(稻子)の様なものは、ミつておけるもので、この様なものは非常時食料ミして取つて置くミ役に立つものであります。又幼稚園等で給食に用ひてもよろしい。ヴィタミンの野菜等の補給、食物の貯藏をして置く事も考へたらよろしいと思ひます。

我國で最も簡単な方法で貯藏するのが上手なのは東北地方であります。戦時下ミ致しまして、その點學ばなければなりません。今までも貯藏については考へねばならないのですが、今日尙一層考慮せねばなりません。

給食してゐる所は保姆の考へをそのまゝ生かしてゆけませんが、給食の不可能なる所は、指導方法ミして、料理ミ、食べ方について、無駄にせぬ様注意しなければなりません。實際はまだく無駄があります。普通の肉の所よりも、血合ひでも、皮でも食べねばなりません。

そいふ食べ方等について母親達にも簡単な利用方法、食べ方について話しておかねばなりません。又よく噛んで食べさせる。これは大切な事でよく噛まねばいけません。

子供にもよく教へます。噛む事を教へる事は難しい事です、今日さうしても此事は必要であります。

過食をさせない事。幼児に過食をさせるのはとてもいけない事です。少食の時よりも幼児は過食の時の方が多いのです。食物は少し位足りなくても病氣にはなりません。食物のない時でも過食で病氣して痩せてしまふものがあります。小さい子供が普通澤山食べるのはひかへたい事であり、主食ならず間食にあらはれるのは親の責任であります。親が子供に食物を與へ過ぎるからで、「お菓子を上げるから」ミ、子供の弱點をねらつて大人が子供を動かすのはいけません。間食の回数に都會でも農家でも七八回位は口にもものを入れてゐる。澤山食べるから丈夫云ふのは違つて、間食の少ないものが一番丈夫であるといふ事がわかります。

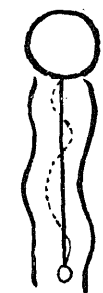
もう一つの指導の問題は偏食させるなといふ事で、偏食すれば、體が弱くなる、體が弱くなるが故に偏食をする云ふ様に、お互が結びついて、んく廣がつてゆきます。偏食だけはなほさないミ立派に育つ譯はないのでありますから、今よりさしく習慣を改めてゆかねばならぬのであります。

第二の幼児の鍊成ミ云ふ事に入ります。今日鍊成ミ云ふ事は、子供にも大人にも、男も女も、老若を問はず要望さ

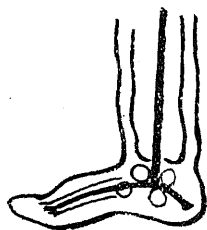
れてゐる事で、人口政策確立要綱に申します厚生省が發表したものでそれをみますに「家三民族を基礎とする世界觀に立脚して」にあります。今までの問題は家のみでしたが家三民族になつてゐます。質に於ても量に於ても日本人は殖えねばならぬ。今日維持してゆかねばならぬ家三民族を考へますに、家三幼児でも、國家三幼児といつてもよろしい。幼児の鍊成を考へる時、大人三違ふ特長があります。それは精神であります。鍊成の際、大人は鍊成されるまき、自分の覺悟があります。指導者自身もかくあるべしまたまきこみます。それは幼児にはむづかしい。子供を指導し鍊成するには精神よりも子供の日常生活を通して鍊成するのであります。家庭ならば家庭で、幼稚園ならば幼稚園でいふ様に生活を通しての鍊成であります。この目標は獨立不羈の、人に世話にならずにやるまきいふ事が大事な基礎の問題で、種々今までやつて來た事を自ら行ふのであります。食事前後の規則、初歩衛生の絶えざる實現を保健上大事な事であります。それも指導者が指導する事なしにさつさきする様になつてほしいものであります。自然に子供の體力も養成し、保姆も子供も母も助かります。そして餘りし精力は他の方につかふのであります。一々世話をする時間も足りません。さつさきやらせる時間も生み出せませす。子供の鍊成まき云ふまき個人的の體方の差を考へねば

なりません。幼稚園には一、二年三あります。二年目の年長組に或體鍊をやる三します。二年の體鍊に弱い子供は出來ませんから一年にまはすまきいふ事も起つてきます。最近大病したまきか、結核の反應が最近出たまき風な子供は多少の例外を作らねばなりません。子供の身體の鍛鍊には、忍耐力、精神力が必要で、これを養つてゆく體が必要で、これを行はぬ三結果はいけません。日常生活をきちんと自分で何でもする事から鍊成する三一番好い三思ひます。

この頃は遊具も不自由で、體力鍊成は遊具使用が困難であります。しからは幼児の時はさういふ時からすればよいか三申しますまき、遊具が無い三しますまき、初めは歩く事をするのがよろしい。但し重いものを持たせる三危険であります。この頃になる三子供は脊髓に彎曲が出てくる。生理



的彎曲をする。この時期に重いものを背おわせるのは感心しない事でありませす。



もう一つは扁平足の事であります。人間の足には一つの穹窿があるので幼児期に重

いものを持たせるに、それがおされて扁平足になります。それゆゑ歩かせる事は結構ですが重いものを持たせるのは考へねばなりません。

第三番目は天然資源の利用であります。普通あるものを利用する事であります。我々は普段幼稚園で行ふ日光浴、空氣浴、又風、水で普段何處でも得られるものをよく利用するのであります。平時でもよく利用されねばならぬのですが、榮養が足りぬ所は、この天然資源の利用で補充してゆかねばならないと考へます。光にあてよ、日にあてよは常識ですが戦時下にはもう一度考へなほします。よく知つていながら、水の利用法、風の利用法には家庭に行くに利用されぬ所が多い様です。天然資源こそ子供の保健上もつこく利用されたいと思ひます。例へば、水を用ふに云ふ事も、手を洗ふに細菌を落すに云ふ事も消極的に保健で、體、足を洗ふに云ふ事は皮膚そのものを鍛練する事であり、風により鍛練に云ふ事は水で練えるのも同じであります。血管を膨したり縮せたりに云ふ事が必要で、神經の働を敏速にする事が鍛練であります。それゆゑ風よりも水の方が、水よりも海水がよいと云へます。兎角水でも相當鍛練出来るのであります。水浴は三歳以下はあまり鍛練の意味には役立ちません。皮膚の鍛練は出來ますが、さういふ所に差別するかと申しますと海なり河なりに入つて子供

が冷えきらぬ體力をもつてゐるに云ふ事でこれは三歳以上でないにツイてないので水の中で自分で能動的にあれば事が出來ないのであります。海邊、川邊でぼちやく遊ぶのはよろしい。

風に吹かれる事も重要であります。皮膚が風に吹かれるのは皮膚の血管の伸縮で、皮膚が準備行動するのであります。膨張したつきりであるに、外が冷えてゐるにもかゝらず膨張した神經が働くので風邪を引きます。冬にゆくに從つて厚着をさせるのですから秋が一番大切であります。その頃母親がその事を徹底させる事が必要です。

第四は豫防の問題でこれは子供を澤山預つて痛切に感じる事であります。戦時下に病氣をするのは一番困ります。戦時下は病氣をしない事で即ち病氣の豫防をせねばなりません。結局子供の體の抵抗力の事でこれがあれば病氣は防げるし、病氣にも負けません。榮養を正しく取り偏食しない様、過食にもならぬ様にする事が大切でそれと同時に皮膚の抵抗力をつけ少し位では風邪を引かぬ抵抗力が必要であります。

又病氣に對する免疫に云ふ事でもあります。

免疫

能動的 (長つゞきのするもの)
受動的 (すぐ出来るが長つゞきしない出來あがつたものとする)

免疫には能動的と受動的とあります。能動的は、例へばジフテリアの毒を集めたものを注射するこ子供の中で毒を作るこ能動的免疫が出来るわけです。受動的は、子供の咽喉に義膜がついてあるこいふ時にワクチンをつけても間に合いません。その場合、馬に注射して馬の體の中に抵抗力を作り、その抵抗力のある血液から分けた血清を子供に注射する事でこの中には細菌を殺す力が澤山あります。

す。何れにしても病氣に對する抵抗は免疫であります。麻疹はうつる事九八%の感染率を持つてゐます。しかし生後一、二ヶ月経つた子供は罹りません。これは母親の中にいる時免疫體を受動的にもらつて來てゐるのでさういふ時は決して罹りません。母親の免疫性がなくなるこ罹り易くなります。一度麻疹に罹るこ能動的免疫が出來一生罹らぬ様になります。

〔新刊紹介〕

愛育の玩具 中島義友著

協同公社出版部

麴町區有樂町一ノ二

定價 一、^円入〇

繪本の研究

牛島義友 共著
矢部信一

協同公社出版部

定價 二、〇〇

右兩書は著者の長年の御研究の結實せしものにして、保姆諸氏の御精讀を切にお薦めする (編輯部)